

盛岡市 鉦屋町界限

～盛岡町家と暮らしと文化がいきづく街並みの保存活用～

岩手県 盛岡市
特定非営利活動法人 盛岡まち並み塾



喜びの声



受賞者

特定非営利活動法人
盛岡まち並み塾
理事長
海野 伸

コメント

任意団体からスタートした地域と行政の皆様との取組を評価していただき、大変嬉しく、今後の活動の励みになります。盛岡町家と歴史的街並み空間が生み出す、暮らしと文化、人々の義理人情溢れる関係性を、どの時代にも通じる普遍的な財産として、未来に繋げる取組を今後も続けて参ります。

ぜひ岩手にお越しの際は、盛岡市鉦屋町界限に足をお運びください。

活動の内容

- 界限マップや町家紹介パンフレット等の作成配布
- 住民との協働による企画の実施
- 観光案内、喫茶、スペース貸し等の町家活用
- 改修相談窓口の設置、改修補助制度資料の配布
- 暮らし歳時記のイベント化による伝統文化の次世代への継承
- 街並み・町家を活用した定期的なイベントの開催
- 地域資源を活用したイベント開催

活動の経歴

- 平成 15 年 盛岡まち並み塾発足
- 平成 16 年 「盛岡町家旧暦の雛祭り」の開催開始
- 平成 19 年 第一号の町家借上げ改修事業で「大慈清水御休み処」開設
- 平成 24 年 「あさ顔プロジェクト」開始
- 平成 29 年 舟運復活を目指す「北上川に舟っこを運航する盛岡の会」に参画

3 活動の成果や波及効果等

町家の改修推進のため、「街並み修景フォーラム・見学会」の開催、季節のイベントを住民と協働で実施しています。

町家改修等街並み整備の成果としては、建物修景軒数が10年間で28軒(うち新規移転や開業が21軒)と、賑わい創出に寄与しています。

平成22年から観光案内や情報発信・街並み保存相談窓口の拠点設置(年16,000名利用)、「もりおかわかもプロジェクト/盛岡町家de手づくり市」(来場数15,000名)の定期開催など、若者活動と賑わいが定着しています。



「街並み修景フォーラム」改修事例見学会



親子参加型 住民町家の改修体験



「盛岡町家de手づくり市」クラフトイベント



「盛岡町家de手づくり市」参加した学生とスタッフ



親子連れで賑わう旧街道筋

●所在地

岩手県盛岡市鉦屋町、大慈寺町、南大通二丁目、南大通三丁目地内

●活動主体及び連絡先

特定非営利活動法人 盛岡まち並み塾 (019-656-1603)

●対象となる社会資本

鉦屋町界限の歴史的街並み(街なみ環境整備事業)

※管理者:街並み保存活用推進協議会(事務局:盛岡市交流推進部観光課)



1 社会資本の概要

盛岡市は岩手県中部に位置し、東北最大の北上川が南北に流れる自然豊かな地域で、平安時代に征夷大将軍坂上田村麻呂が北上川西岸に紫波城を築き、朝廷の東北経営の拠点となりました。明治以後は岩手県の県庁所在地となり、同県の政治、経済、交通の中心都市となっています。

盛岡市の代表的な歴史的街並みは、近代化遺産といわれる明治・大正期に建てられた銀行群を中心とした中の橋通りから鉦屋町界限の街並みと、盛岡

町家と言われる商家・民家と土蔵、寺院群が集まる大慈寺町・鉦屋町(なたやちょう)界限の街並みに大別されます。

鉦屋町界限は江戸から明治期に、北上川舟運の起点・街道の城下玄関口として栄え、旧商家の町家、舟運時代の土蔵、寺院、自然風土が育む緑と清水等、城下町の風情と暮らしが息づいています。



もりおか鉦屋町界限案内図



残したい盛岡のお盆の風景



改修活用した明治期の盛岡町家

2 取組の背景、取組概要と創意・工夫

平成15年開催の地元住民と建築家等専門家の勉強会で、街並み及び町家の価値を見直し、暮らしの文化や歳時記との繋がりも再認識し、盛岡の歴史文化遺産として次代に繋ぐ活動が提案された事を契機に、盛岡まち並み塾が発足し活動が始まりました。

家族間の生活意識の違いやまちづくりへの温度差、近隣の利害関係等がある中、中立の立場でま

ちづくりの相談窓口として地域に入る必要があると考え、盛岡まち並み塾が活動する事務局拠点機能を盛岡町家を改修した「大慈清水(だいじしみず)御休み処」に設置し、情報発信拠点としました。また、暮らし、伝統文化とともに街並みを次世代へ受継ぐ取組として、盛岡の旧家で雪解けの4月に旧暦で行っていた雛祭りを活用して、「盛岡町家旧暦の雛祭り」を開催しています。



事務局拠点「大慈清水御休み処」



盛岡町家旧暦の雛祭り



一般公開される雛人形と盛岡町家暮らし